

令和7年度鎌ヶ谷市献血推進協議会会議録

1 開催日時

令和8年2月20日（金） 13:15～14:15

2 開催場所

総合福祉保健センター4階 会議室

3 議題

- (1) 令和7年度鎌ヶ谷市献血事業実績について
- (2) 令和8年度鎌ヶ谷市献血実施計画について
- (3) 令和8年度千葉県献血推進計画について

4 出席者

(1) 委員

大石孝委員、野村直人委員（1号委員）、杉戸一寿委員（2号委員）、皆川洋子委員、川田由美子委員、吉野麻美委員、渡部臣道委員（3号委員）

(2) 千葉県赤十字血液センター

事業推進一副部長兼献血推進課長兼千葉出張所長 村田淳
事業推進一部 献血推進課主事 吉澤美海

(3) 事務局

本間健康増進課長、舟波主幹、吉田係長、鎌田副主幹、松本看護師

5 欠席者

齋藤健一委員、佐々木純委員（1名委任状提出あり）

6 傍聴人

0人

（事務局：鎌田）

本日は、お忙しい中、鎌ヶ谷市献血推進協議会にご参集いただきまして、ありがとうございます。定刻となりましたので、令和7年度鎌ヶ谷市献血推進協議会をはじめます。私は、本日の会議で議長が決定するまでの間、司会・進行を務めさせていただきます、健康増進課の鎌田と申します。どうぞよろしく

お願いします。

本日は委嘱後初の会議でございますので、会長・副会長の選出をお願いしたいと思います。「鎌ヶ谷市献血推進協議会設置要綱」第3条の規定により委員の互選となっておりますので、よろしくお願いします。

本協議会の会長・副会長につきましては、慣例で、会長に保健医療関係団体の代表、副会長に関係行政機関の代表の方にお引き受けいただいておりますが、いかがでしょうか。

(一同) 異議なし

(事務局：鎌田)

ありがとうございます。

保健医療関係団体からは、鎌ヶ谷市医師会所属の先生を2名委嘱させていただいておりますが、事前に先生方にご協議をさせていただきまして、大石委員とさせていただきます。それでは、本会の会長に大石委員、副会長に習志野健康福祉センター長の杉戸委員とさせていただきます。

さっそく議事に入らせていただきますが、本会の議長は、鎌ヶ谷市献血推進協議会設置要綱第5条によりまして、会長が務めることとなっておりますので、これ以降の議題につきまして、大石会長に議事進行をお願いできればと思います。よろしくお願ひいたします。

(大石会長)

本会の会長の大石です。よろしくお願ひいたします。

それでは、早速、お手元の会議次第に基づき、議事進行させていただきます。皆様のご協力をお願いいたします。

まず「会議録署名人の選任について」ですが、事務局から説明願ひます。

(事務局：鎌田)

議事録署名人は、後日、事務局で本日の会議の記録を作成した後、署名をいただく方となります。本協議会の議事録は、概要と発言者名を記載する形としております。

また、署名人を、名簿順としておりますので、今回は、ご出席者の中で、川田委員と吉野委員をお願いしたいと存じます。

なお、ご承認いただければ、会議録作成のため、発言の内容は録音させていただきます。

(大石会長)

皆さん、いかがですか。

(一同) 異議なし

(大石会長)

では、署名人は、川田委員と吉野委員にお願いし、議事録は概要と発言者名を記載する形とし、事務局で議事録の作成をお願いします。

それでは、議事に入りますが、この会議の公開について、事務局より説明してください。

(事務局：鎌田)

本協議会は、「鎌ヶ谷市における審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき、法令または条例の規定により会議が非公開とされる場合を除きまして、原則公開となっておりますので、公開とさせていただければと思います。

(大石会長)

異議はありませんか。

(一同) 異議なし

(大石会長)

事務局、本日は傍聴の希望はありますか。

(事務局) (鎌田傍聴確認)

ございません。

(大石会長)

それでは、早速、お手元の会議次第に基づき、議事進行させていただきます。
議題1 令和7年度鎌ヶ谷市献血事業実績について事務局説明をお願いします。

(事務局：松本)

事務局の松本から説明させていただきます。よろしくお願いたします。

会議次第4枚目、資料1をご覧ください。まず初めに、令和7年度鎌ヶ谷市献血事業実績の(1)市主催事業実施状況について説明させていただきます。

鎌ヶ谷市主催事業とは、市役所・警察署・消防署で実施した献血です。市役所では職員及び市民の方を対象として1日実施しており、警察署や消防署では、主に職員を対象とし半日実施しております。

今年度は3月にあと2回、献血を予定しておりますが、1月時点での実績としまして、今年度は503人と、前年の同時期の実績497人と比べまして6人増となっております。

今年度の特徴としましては、6月は初の試みとして、市役所正面玄関前の外テントで献血を開催しました。当日は、気温も低く、冷たい雨となりましたが、73人と、多くの方にいらしていただくことができました。

また、9月は、前年度の同時期の開催で80人を超える方に来場いただき、お待たせする時間が増えてしまった経験から、献血車のベッド数を増やして対応しました。結果、過去最高数となります86人の方にご来場いただくことができました。前回待ち時間1時間以上とアンケートで答えられた方が7パーセントほどいらっしゃいましたが、資料2の6ページ目の⑤にもありますように、今回は、約98パーセントの方が30分以内と答えられ、1時間以上と答えられた方はいらっしゃいませんでした。

12月は、市で掲げております受付目標の70人には達しませんでした。全体的にみますと、あと3月に2回の開催を残して、現時点で503人ですので、過去最高数となりました、昨年度の570人に並ぶ実績となる見込みです。これもひとえに、日頃からあたたかいボランティア活動を行っていただいております、各協力団体の皆さまのお力添えによるものと、心より感謝申し上げます。

次に、資料1の(2)事業所等主催事業実施状況をご覧ください。

こちらは、赤十字血液センターが主体となり、実施した献血です。

今年度は、中央自動車大学校、中西産業株式会社、東邦鎌谷病院、鎌ヶ谷総合病院、初富保健病院で開催しております。

主に職員の方を対象として半日献血を実施している事業所が多いため、今まで市で積極的に広報は行っておりませんでした。今年度は一般の方も対象としている鎌ヶ谷総合病院と初富保健病院の開催時には、2～3週間前より、市役所内や保健センターだけでなく、市の公共施設にもポスター掲示を依頼するなどの周知活動を行いました。

こちらは計画したものは全て終了しております。昨年度実績が170人、今年度実績は200人となりました。ご協力いただきました企業や病院の皆様をはじめ、赤十字血液センターの皆様のご尽力に感謝申し上げます。

次に、今年度の広報活動の実績とアンケート結果について説明させていただきます。

きます。

前年度からの改善点として、ポスターについてですが、市役所と保健センター内の市民向けのロビーのみに掲示していたものを、各階の掲示板にも掲示するようにし、より多くの方の目に留まるようにしました。また、資料6の2にありますように、職員向けの電子掲示板のお知らせも、文字のみのものから、よりわかりやすく目につくように図やイラストを追加し、開催1週間前より配信しました。

また、昨年度ご意見をいただいた中に、年間献血予定が分かるものを広報資料に入れてはどうか、というご意見がありましたので、資料の最後に添付しておりますリーフレットを作成し、献血開催時だけでなく、総合福祉保健センター内で行われる検診会場でも配布を行いました。

また、若年層を対象とした献血普及啓発として、10代の方に献血を身近に感じてもらい、献血者の底上げに繋がられるよう、市内2か所の公立高校へ、赤十字血液センターの吉澤さんと訪問させていただき、校内へのポスター掲示依頼や、SNS媒体を利用した若年層向けの献血イベント等の情報配信を依頼し、両校ともにご快諾いただくことができました。今後も公的機関より若年層向けの啓発資料が届きましたら、随時依頼させていただく予定です。

続きまして、資料2の、アンケート結果について説明させていただきます。

アンケートは、献血協力者の確保のため、参加者の年代別の傾向や献血のきっかけを聞き取り、各種広報活動の効果検証を行うことで、今後の事業における効果的なアプローチを検討する目的で令和6年度より行っております。

今年度は、例年、若年層の献血者が少ないため、どのようなアプローチが効果的なのか、傾向を知るため、20代から30代の献血者のアンケートの集計結果をピックアップして分析し、別添1としてまとめました。

傾向としましては、一番上の図にありますように、本で行われる献血を知った情報媒体は、「放送」が最も多く、次いで「来庁して知った」「友人・知人から」「メール」「ポスター」となっております。

また、69パーセントの方が予約をしておらず、献血日に来庁してその場で協力といった流れの方が多いと推察されました。市役所内での放送は献血1週間前から当日まで放送しておりますが、献血をするきっかけとしては、「誰かの役に立てるから」が最も多く、次いで「会場が近くだったから」となっております。「血液検査ができるから」「プレゼントがもらえるから」を挙げた方も一定数おられるため、それらに関連した興味を引く耳に残りやすい放送内容となるよう工夫を行っていきたいと思っております。ポスターに関しましては来庁時に目に入りやすい場所で掲示し、若年層がより利用する可能性の高い施設、

まなびいプラザ、東部学習センター、図書館やさわやかプラザ軽井沢などへの掲示依頼なども引き続き行っていきたいと考えています。

続きまして、資料6の3をご覧ください。こちらは、新鎌ヶ谷駅前電光掲示板（デジタルサイネージ）による広報の1例です。市民課前の電光掲示板でも放映しております、こちら、年間の献血予定日がわかるようになっております。この取組は、令和6年度から行ってございまして、献血開催日の1か月前より放映しています。デジタルサイネージによる広報に関しましては、アンケート結果上、献血者の増加につながってはおりませんが、駅を利用する高校生から「かわいい」と好意的な反響がみられておりますので、若年層向けの啓発の一環として今後も継続していく予定です。

また、資料2のアンケート結果にもどりまして、40代以上の傾向を説明いたします。

アンケート結果は、開催月ごとに集計してございまして、それぞれの月の②の表にございますとおり、献血協力者を年代別で見ますと、一番多い年代は50代、次いで40代、60代となっております。

40代以降では、本日行われる献血を知った情報媒体は赤十字血液センターさんからのメールが最も多く、以降、放送、SNSとなっております。

また、居住地は、半数以上が市内、90パーセントの方が県内からいらっしやっただいており、70パーセントの方がリピーターとなって、市役所の会場を利用されている、という結果となっております。

アンケート結果8ページ目の自由記載にも、「待ち時間もなく、常設の場所よりスムーズに案内してくれるので気に入ってます」や「親切、丁寧、迅速、良かったです」などの好意的な記載が多くみられ、スタッフ対応も「良かった・大変良かった」が98パーセント、採血までの待ち時間は97パーセントの方が30分以内となっており、献血に携わる皆さまの迅速な対応や、思いやりのある対応によって、多くのリピーターを生み、好意的な評価をいただいているのだと推察されます。あらためて、赤十字血液センターの方をはじめ、各協力団体の皆さまにお礼申し上げます。

アンケートについてですが、アンケートを開始した令和6年9月から現在まで、延べ321名の方にご協力いただき、目的としておりました協力者層の傾向や各種広報活動の検証が行えたので、今年度でこの内容のアンケートはいったん終了とさせていただく予定です。

また、今後再開する際には、目的を絞り、意義のある内容のアンケートを作成したいと思っております。以上です。

(大石会長)

ただ今の議題1の説明に対し、ご質問等はございませんか。

ないようですので、議題2 令和8年度鎌ヶ谷市献血実施計画について事務局より説明を願います。

(事務局：松本)

資料3、令和8年度鎌ヶ谷市献血事業実施計画をご覧ください。

市主催事業については昨年度同様の会場、同様の回数で実施を予定しております。各協力団体の皆様におかれましては、令和8年度もご協力の程、よろしくお願いいたします。事業所等での実施も今年度同様の実施場所・回数となる見込みです。

続いて、資料4、令和8年度鎌ヶ谷市献血推進計画をご覧ください。

令和8年度鎌ヶ谷市献血推進計画は、資料5の令和8年度千葉県献血推進計画(案)に基づき、計画を作成しているものです。千葉県献血推進計画(案)の表2、令和8年度市町村別献血目標の上から4行目の習志野のなかに、鎌ヶ谷市の献血目標がございます。県の推進計画において、鎌ヶ谷市は200ml献血33人、400ml献血1,064人、計1,097人の目標となっております。

その目標を踏まえ、資料4の献血予定人数を設定しておりまして、市役所で行う400ml献血は実績のある9月に80人、その他の月は70人と設定しております。

市役所での献血者目標が70～80人ですと、10人前後の不適者数を鑑み、受付人数を80～90人は確保する必要がありますが、花粉症や感染症などの季節的な体調不良者の増加などもありますし、コンスタントに確保するのが難しい人数でもあります。つきましては、より一層の広報の充実が必要であると考えており、具体的な広報活動としては、資料4の裏面がございます、令和8年度献血広報計画のとおりです。

来年度も皆さまのお力を借りしながら、目標に近づけるよう尽力していきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

(大石会長)

ただ今の議題2の説明に対し、ご質問等はございませんか。

なければ、議題3 令和8年度千葉県献血推進計画について赤十字血液センターより説明を願います。

(血液センター：村田副部長)

千葉県赤十字血液センターの村田と申します。私の方からは、令和8年度千葉県献血推進計画ということで、資料5を見ていただきたいと思います。

昨年、1月27日に千葉県の献血推進協議会で、令和8年度の千葉県全体の計画が承認されたというところでこちらの資料になっています。

1番の県の献血目標につきましては、令和8年度千葉県全体で237,474人分の献血が必要というところで、計画されています。

下の表1のところの合計を見ていただきたいと思います。それぞれの献血区分のところは、成分献血、全血献血と分かれています。成分献血の方は令和7年度(今年度)よりも多い計画となっています。

あとは、全血献血の400mlが今年度よりも若干少ない計画となっていて、合計としましては、237,474人、令和7年度は237,303人でしたので、微増というか横ばいに近いような計画となっていますので、来年度も同様な血液の量が必要ということで、ご理解いただきたいと思います。

2番の市町村別献血目標につきましては、先程、市の方の計画が示されていましたがけれども、基本的には、献血可能昼間人口で配分されておりますので、その数字になってくる、ということをご理解いただきたいと思っています。

あとは、第2節の方の必要な措置に関する部分というのは、どうやって採血をとっていくのか、という内容になっています。

1番目、献血推進のための施策、ということで、色々なキャンペーンを月毎にやっていきたいと思います、という内容です。

2番目ということで、若年層を対象とした普及啓発ですが、献血可能人口というのも、人口の比率と一緒なので、年々減少してきます。

ですので、特に10代から30代、小中学校からの啓発も必要ということで、そのあたりを重点的に行なっていく、啓発の方も含めてやっていこうじゃないか、ということで承認をいただいているところです。細かいところは、また後程ご確認いただければと思います。

3番目、幼少期を対象とした対策、これは親子で献血に触れ合う機会を設けていきたいと思いますといった部分で、KIDS CROSS (キッズクロス) といって、赤十字のことを知っていただくイベントの中で献血も知ってもらおうということをやっています。

4番目、献血者が安心して献血できる環境の整備ということで、受け入れに対しては丁寧にはもちろんですけど、個人情報は今特に重要視されていますので、しっかりと対応しながら皆さまが安心して献血できる環境をつくっていきましょう、ということをご承認をいただいているところでございます。

資料の方は以上となりますけれども、我々血液センターは医療機関からの要請にしっかりと滞りなく血液製剤を供給できるように、安全な血液を計画的に安定的に採血をしていこうということでしっかりとした役割を果たしていくところがございますので、皆さまのご理解ご協力をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。別添の赤十字の資料については吉澤の方から説明させていただきます。

(血液センター：吉澤主事)

資料をご覧ください。千葉県内では一日800名という目標を掲げて、日々献血ルーム6か所、また、移動班の方で献血バスを配車したりなど、確保に向けて動いております。

輸血用の血液の8割は病気の患者さん、悪性新生物等の患者さんに使われております。昨今、少子高齢化の影響もありまして、医療機関の要請も日々増えている状況でございます。そのため、1本でも多くの血液を皆さまからいただき、医療機関に滞りなく届けることがより一層必要となっております。

千葉県の供給状況の一番下にある年代別の献血状況をみていただきますと、10代から30代の方、我々若年層と呼んでいるんですけど、こちらは10年で17.8パーセント減少しておりまして、今、少子高齢化なので学校なども生徒数が減っているというのもありまして、今後もかなり減少の傾向があると予想されています。

先程千葉県の献血計画の方でも記載されていたように、小中学生に対して献血のセミナーだったり、KIDS CROSS（キッズクロス）とって、私も今年度参加したんですけども、小さいうちから献血ってどういうものなんだろう、っていうのを知っていただく機会を増やしていくことによって、少しでも献血に参加するハードルを下げていただければ、という取組を我々の方でも活発的にしていく必要があると考えております。

先程もお話がありましたが、今年度、私も高校に訪問させていただいて、献血バスを配車するのは現実的に難しいところではあるんですが、ポスターの掲示や、より学生がわかりやすいような広報資材を作ることで、市役所での献血に参加できなくても献血ルームなどでご協力いただける体制を整えていきたいと思っております。

また3月に今年度最後の献血が市役所でございます。千葉県内では計画通りの採血をおかげさまで進めているんですけども、ブロック全体で見るとまだまだ血液の在庫が厳しい状況が続いております。一本でも多くの採血を必要としておりますので、今後もみなさまのご協力をいただければと思います。今後

ともぜひよろしく願いいたします。

(大石会長)

ご説明ありがとうございます。

ただ今の議題3の説明に対し、ご質問等はございませんか。

(渡部委員)

勉強不足で申し訳ないですが、若年層は何歳から献血ができますか。

(血液センター：吉澤主事)

200ml 献血は16歳から、成分献血は18歳からご協力いただけます。

献血は年齢制限がございます、69歳までの方、70歳のお誕生日を迎えられる方までご協力をお願いしております。

より若い年代から、献血に触れていただく機会を設けてまいりたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(渡部委員)

学校の方へ赴いて献血をされたりはしますか。

(血液センター：吉澤主事)

鎌ヶ谷市内では配車は現状行ってはおりません。

我々の方で、年度が替わる前に高校の授業のカリキュラムに献血バスを配車できるかどうかのアンケートを実施しておりまして、そのご回答次第になってしまいうのですが、現状、鎌ヶ谷市内の高校では難しいということでご回答いただいております。

(渡部委員)

アプローチはしているんだけど、やってはいない、ということですかね。

(血液センター：吉澤主事)

そうですね、はい。

(血液センター：村田副部長)

千葉県内で実施している高校もあるんですけど、公立高校の実施はほとんどないです。私学の高校がほとんどです。

(渡部委員)

大学の方も同じ状況ですか。

(血液センター：吉澤主事)

大学の方は、県内で多くの大学にご協力いただいています。年に2回ほど配車をさせていただいております。

(渡部委員)

ありがとうございました。

(大石会長)

ありがとうございます。他に、ご質問等はございませんか。

(川田委員)

一つ意見があります。

いつも市役所でお手伝いするときに、平日なので、若年層っていうのは全く来ないです。新鎌ヶ谷の駅の交番の所は色んな高校のスクールバスが停まるところなんですけど、そこで啓発ができたらいんじゃないかな、と思います。

パンフレットの的なものを作るとか、準備が大変だと思いますが、市役所にいらっしゃる方はお孫さんがいると思うので、いつもティッシュしか渡していないんですが、それと一緒に、「お孫さんいらっしゃったらご案内してください」とチラシを配れたら、お声掛けしてくれたりするチャンスになるのではないかなと思うんです。広めていくために、ティッシュだけではなく、そういうチラシがあったらという意見です。

(大石会長)

ありがとうございます。他に、ご質問等はございませんか。

では、私からいいですか。一日に800名分の献血が必要というのは、相当な量ですよ。320,000ml位になりますが、一日にこんなに必要になってくるんですか。

(血液センター：吉澤主事)

800名分っていうのは、だいたいのデータというものもあるのですが、血液は長期の保存ができませんので、赤血球製剤28日間、血小板製剤については今期間が延びて6～7日というようになっているんですけども、突然の出向

に備えてブロックのセンターで管理をしていたりというのもあります。枯渇してはいけないので、在庫を保つ意味としてでも800名分の採血という目標数となっています。

(大石会長)

何割くらい、実際に使われているんですか。

(血液センター：村田副部長)

実際としては、受付目標として800名、1割お願いできない方がいらっしゃるとして、720名くらい、これが目標数となってきまして、減損率といって、患者さんに使用できない血液がだいたい2～3パーセントくらいです。

(大石会長)

だいたい使われているんですね。

(血液センター：村田副部長)

そうですね、ほぼ使われていると考えていただいてよろしいかと思います。

(大石会長)

ありがとうございます。他に何かございませんか。

ないようであれば、議題1，2，3すべてにご承認いただいたということでよろしいですか。

(一同) 異議なし

(大石会長)

ありがとうございます。本日の議事はすべて終了いたしました。最後に事務局から何かありますか。

(事務局：松本)

今年度は、市役所で、あと1回、3月3日(火)に献血がございます。ご多忙のところ恐れ入りますが、今後も皆さまのお力添えを賜りながら、少しでも、県の献血目標に近づくよう、尽力してまいりたいと考えておりますので、引き続きご協力よろしくお願いたします。

(大石会長)

全体として、皆様何かございますか。ご意見などはないでしょうか。
なければ、以上で本日の協議会を終了いたします。

皆様、ご協力ありがとうございました。

<閉会>